

**IBM**



**GDPR の要件に備える**

# 企業のデータを保護し続けることで、 GDPR 対応を加速化

一般データ保護規則(General Data Protection Regulation: GDPR)の開始、2018年5月が迫っており、CIOらのビジネス・リーダー達は、自社のコンプライアンスに対応できるツールを調査し、準備する必要があります

## データを安全に保護し続けることで、GDPR 対応を加速化

2018年5月の期限を前に、企業はEU一般データ保護規則(GDPR)の広範囲に及ぶセキュリティーとプライバシーの義務、EUのデータ主体の個人情報の保管、処理、管理方法について真剣に取り組んでいるようです。

個人データを含むデータの保護のため、企業はデータ・アクセスとデータ送信に特に注意を払いながら、アーキテクチャー、設計、運用サポートの基礎に改めて焦点を置く必要があるでしょう。企業はデータを保護する立場にあり、GDPRに従ってプライバシーを計画的に保護する必要があります。そのため、企業はデータの流れと取り扱い方法、プライバシーとセキュリティーを実現する方法を理解し、証明しなければなりません。

「かつては、公共広告で"11時になりました。あなたの子供がどこにいるか知っていますか?"というのがありました。今は"GDPRの時代になりました。データがどこにあるかわかりますか?"と問われています。企業はデータをしっかり管理する必要があります」と、IBMのハイブリッド・クラウド情報セキュリティー最高責任者であり副社長、IBM上級エンジニアでもあるHeather Hintonは言います。

企業は今すぐ対策を講じて、個人データがどこに保管されているのか、どのように使用されているのか、どのように安全に機密が保護されているのかをしっかりと把握しておく必要があります



## 計画的なプライバシー対策

計画的なプライバシー対策と既定のプライバシー対策 (第 25 項) の GDPR 要件について不安を抱いている企業は、IBM Cloud で GDPR 対応を加速化することができます。

「セキュリティとプライバシー、ビジネスの間には緊迫した関係があります。これまでは、ビジネスに対するリスク許容度が非常に高く、データの処理に対してある程度のリスクを受け入れてきました。GDPR 以降、企業は引き続きビジネス主導型でありながら、個人データをリスクにさらすことに対してもっと強い認識を持つ必要があります」と Hinton は言います。

GDPR の厳しい点は、不履行があった場合、最大 2000 万ユーロまたは前年の収益全体の 4% (どちらか大きい方) の罰金が科せられる点ですが、GDPR に対応することで企業に競争上の優位性をもたらすという利点もあります。

IBM Cloud を利用すると、企業は GDPR 対応プロセスの主要な面を加速化することで、必要な対策を講じることができます。

## 対応の加速化

IBM のデータ検出ツールは、データの特定と評価を支援します。多くのコンプライアンス遵守の証明と認証で実証されている IBM Cloud のセキュリティ第一の設計は、<sup>1</sup>貴社のビジネス環境を保護します。IBM Guardium ファミリーなどのツールを使用すると、クラウドまたは自社のいずれにあって、既存のアプリケーションに入り込んだ個人データを検出し、保護することができます。

「IBM は、お客様がデータの全体像を掴めるように、そしてデータでどのような作業をしているのか、どのアプリケーションが個人データにアクセスできるのかを理解できるように支援することができます。環境内で使用されているすべての個人データを理解すれば、管理体制の整備に必要な情報を得て、適切な取り組みとベスト・プラクティスを実施しやすくなります」と Hinton は語ります。

IBM Cloud を選択すると、そのデータ処理において、送信中のデータと保管中のデータのマスキングや暗号化などの技法で個人データを処理してきた長年の実績があるため、安心できます。

「IBM は、どのデータを収集、保護する必要があるのかについて理解できるように企業を支援します。アクセス管理は重要な位置を占めており、IBM は、データの暗号化やマスキングがどのようなレベルでも最適なツールを使えるようにお手伝いします。私たちは、物理レベル、運用レベル、アプリケーション・レベルのセキュリティを考えます」

## 業界標準

IBM Cloud は、EU のクラウドデータ保護行動規範 (Cloud Data Protection Code of Conduct) にいち早く対応し、<sup>2</sup> ISO 27001 などの業界セキュリティ標準、<sup>3</sup> および Privacy Shield 認定を遵守しているので、必要不可欠な保護で個人のプライバシーを守りながら、中断のないデータのやり取りを確実に実現します。

IBM Cloud を利用すると、EU 内でデータを保管することができます。IBM Cloud は欧州にクラウド・データセンター・ネットワークを持ち、欧州中でフル稼働する 16 のクラウド・データセンターがあります。また、フランクフルトには新しいデータセンター拠点があります。

GDPR の厳しい点は、GDPR 不履行があった場合、最大 2000 万ユーロまたは前年の世界での収益全体の 4% (いずれか金額の大きい方) の罰金が科せられる点ですが、GDPR に対応することで、企業に競争優位性をもたらすという利点もあります。

「セキュリティーとプライバシーは後付けなく、最初から IBM の DNA に組み込まれています。IBM Cloud は、社内の関係者や他の企業、組織にベスト・プラクティスを実証するために、厳しいプロセスを経てきました」と Hinton は言います。

**IBM Cloud はお客様と連携して、原因を見つけ、対策を確立します**

## データ漏洩の管理

データ漏洩が発生した場合は、インシデント対応チームが NIST ガイドラインに従って、漏洩をお客様に伝えます。<sup>4</sup> IBM Cloud はお客様と連携して、原因を見つけ、対策を確立します。

GDPR 遵守の過程で IBM Cloud を選択することは、特に専門スタッフのスキルを利用できない中小企業にとって理にかなった選択です。IBM Cloud および IBM のセキュリティーとプライバシーのサービス型ソフトウェア (SaaS) を選択すれば、高額な費用が発生しかねないスタックを最初から自力で開発する必要がなくなり、データ保護とプライバシー要件に対してより高い価値と心の安定を得ることができます。

GDPR に対応するデータのセキュリティーとプライバシーの詳細については、[こちらをクリックするか](#)、IBM 営業担当者までお問い合わせください。

**免責条項:** 顧客は EU 一般データ保護規則など、さまざまな法律や規制を確実に遵守する責任を負います。顧客は、顧客の事業に影響を及ぼす可能性のある、関係する法律や規制の特定や解釈、およびこれらの法律や規制を遵守するために必要となる対応について、資格を持った弁護士の助言を受ける責任を単独で負います。本書に記載されている製品、サービス、およびその他の機能は、すべての顧客の状況には適しておらず、利用が制限される可能性があります。IBM は、法律、会計または監査上の助言を提供することはいたしませんし、また日本 IBM のサービスまたは製品が、お客様においていかなる法を順守していることの裏付けとなることを表明し、保証するものでもありません。



注記

- 1 <https://www.ibm.com/cloud-computing/bluemix/compliance>
- 2 <https://eucoc.cloud/en/home/>
- 3 [https://www.ibm.com/privacy/details/us/en/privacy\\_shield.html](https://www.ibm.com/privacy/details/us/en/privacy_shield.html)
- 4 [http://www-03.ibm.com/software/sla/slabd.nsf/pdf/7745WW2/\\$file/Z126-7745-WW-2\\_05-2017\\_en\\_US.pdf](http://www-03.ibm.com/software/sla/slabd.nsf/pdf/7745WW2/$file/Z126-7745-WW-2_05-2017_en_US.pdf)